校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信
第１９号　令和３年１２月１３日
小美玉市立美野里中学校

自分の「根」を伸ばす

だいぶ寒い日が続くようになってきました。
１２月５日（日）に行われた関東地区中学校駅伝競走大会では，本校男子チームが，栃木県那須野が原公園を激走しました。３年生にとっては中学校生活最後の，１・２年生にとっては来年につながる立派な走りでした。

これで，本校としては，今年度の中体連主催の運動競技大会は，幕を閉じたことになります。次は，来年度の総体に向かって，実力を蓄える時期に入っていくわけです。
また，３年生にとっては，私立高校受験を間近にひかえ，日々努力を重ねる時期になります。

そんなときだからこそ，この言葉を味わってみようと思います。誰の言葉かは不明ですが，聞いたことのある方も多いのではないでしょうか。

何も咲かない寒い日は，下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く。

華やかなことがない時期には，地道に力を蓄え，来たるべき日に備えることが大事になってきます。
そんな大切なメッセージを野の植物たちは送ってくれます。窓から身近な木々に目を向けてみてください。花を咲かすのは，次の春。それでも土の中で，根はどんどん成長を続けています。そうしたたくましさを人間ももてよと言ってくれているようです。

では，やがて咲く「大きな花」とは何でしょうか。

「歓喜」「達成感」「成就感」「幸福感」「やりがい」「生きがい」「信念」「アイデンティティーの確立」「感謝」等々。

いずれも，自分の人生を支える大きな意味をもつ「花」だと思います。ただ，それゆえに，それを咲かすための「努力」あるいは「代償」をはらっていかなければ，手に入れることはできません。
願わくば，努力の過程を「楽しみ」と感じるようになれれば，最高かもしれません。

よく登山が好きな人に聞くと，「苦しいけれど登っている最中が喜びで，最後に頂上の景色が最高のごほうびとして待っている。」という話をもらえます。今回の話と似ているかも知れません。
スポーツ選手のコメントをご紹介します。

福島千里（陸上短距離選手）
「私は元々，弱い部分をたくさんもっている人間なんです。弱さが克服できるかどうか分からないけど，練習でこれだけやってきたという自信があれば，その弱さを試合で出さないようにはできると思うんです。」
高橋大輔（フィギュアスケート選手）
「自信はないし，弱音はしょっちゅう吐くし，びびったりもする。やっぱり自分は弱いですけど，だからそれを埋めようと，練習をいっぱいする。」

子供たちには，苦しいことにも耐えながら，「根を伸ばす」たくましさを身に付けてほしいと思います。受験も部活動のオフシーズンも「根を伸ばす」時期なのです。

参考文献：『夢の実現力』　児玉光雄著　プレジデント社